

木造阿弥陀如来立像と大覚寺

Wooden Standing Statue of Amida Buddha and Daikaku-ji Temple

千葉市指定文化財

指定年月日 2000年5月17日



Foreign Languages



木造阿弥陀如来立像

松風山靈巖院大覚寺の本尊である木造阿弥陀如来立像は、像内の墨書から、頭部は永享13年(1441)に、体部は「山名法眼」という仏師により文明2年(1470)に製作されたことが分かっています。頬の張った顔立ちや着衣の流れるような線の表現、質感の確かさなど、室町時代後期の代表的な表現が見られます。

大覚寺は寛永元年(1624)に、江戸の靈巖寺をはじめ諸国で多くの寺院を建立し、大巖寺(中央区大巖寺町)の住職も勤めた雄誉靈巖により開かれたと伝えられています。この像の内部には雄誉靈巖により修理が行われた記録があることから、大覚寺が開かれた際に迎えられたと考えられます。

大覚寺はかつて大覚寺山古墳(中央区生実町)の東側にありましたが、大正12年(1923)に現在地に移転し、以前からこの地にあった地藏堂と一体となりました。この地藏堂は、のちに大巖寺を開いた道譽貞把が一時滞在したと伝えられており、室町時代にはすでにこの地にあったようです。地藏堂の本尊である地藏菩薩坐像も、現在は大覚寺本堂に安置されています。



地藏菩薩坐像

2025年3月 千葉市教育委員会